

平成26年3月1日

都道府県協会理事長 殿
各連盟・団体理事長 殿
都道府県協会審判長 殿

公益財団法人 日本バスケットボール協会
審判委員長 吉田 利治

ミニバスケットボール競技規則の一部改正（通知）

記

1. 30秒ルールの変更に伴う競技規則の一部改正について
2. 施行日 平成26年4月1日

上記ルールを改正することに決定いたしましたので、ご通知申し上げます。
貴協会・連盟・団体の傘下の各チーム並びに関係者への周知について、宜しく
お願い申し上げます。

なお、新たにミニバスケットボール競技規則書は発行しませんので、別添の改正
する条文を差し替えて、ご利用ください。

平成26年3月1日

都道府県バスケットボール協会理事長 様
都道府県バスケットボール協会審判長 様
都道府県ミニバスケットボール連盟理事長 様
都道府県ミニバスケットボール連盟審判長 様

日本ミニバスケットボール連盟
会 長 佐々木 民 義
理 事 長 坂 本 昌 彦
(公印省略)

ミニバスケットボール競技規則の一部改正について

春暖の候、貴職におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃より当連盟の活動に対し、ご理解とご協力を賜り心から感謝申し上げます。

さて、4月1日からミニバスケットボール競技規則の30秒ルール改正に伴い、

別紙のとおり条文を一部改正しますので、よろしく申し上げます。

なお、日本ミニバスケットボール連盟ホームページにも掲載しますが、貴協会・

連盟におかれましては、伝達講習等いろいろとお手数をおかけするかと思いますが、

よろしく願いいたします。

ミニバスケットボール競技規則の一部改正

第3章 審判とテーブル・オフィシャルズ

第12条 30秒オペレーター

30秒オペレーターは30秒ルール〔第37条〕用の装置またはストップ・ウォッチを使って秒数をはかり、ボールを保持しているチームが30秒以内にショットをしなかったときには合図をする。

30秒はどちらかのチームがコート内でボールを保持〔第26条〕したときからはかり始める。

30秒は次の時に終わる（30秒をリセットする）

- (1) ボールがシューターの手から離れ、バスケットに入るかリングに触れたとき（ショットされたボールがリングに触れたとき）
- (2) 相手チームがボールを保持したとき
- (3) ボールを保持しているチームの相手チームのファウルやヴァイオリション（アウト・オブ・バウンズを除く）があったとき
- (4) ボールを保持しているチームの相手チームに原因のある理由でゲームが止まったとき
- (5) 審判がどちらのチームにも関係のない理由でゲームを止めたとき

30秒が継続されるとき（30秒をリセットしない）

次のことが起こった結果、それまでボールを保持していたチームに引き続きスロー・インのボールが与えられるときは、30秒を止めるがリセットしない

- (1) ボールがアウト・オブ・バウンズとなったとき
- (2) ボールを保持しているチームのプレイヤーの負傷などで審判がゲームを止めたとき
- (3) ジャンプ・ボール・シチュエーションになったとき
- (4) ダブルファウルが宣せられたとき

黄色と赤色の小旗を使って30秒の経過を表示するときは、15秒から24秒までは黄色、25秒から30秒までは赤色で表示する。

第6章 プレイの規定

第37条 30秒ルール

コート内でボールを保持したチームは、30秒以内にショットをしなければならない。

30秒たってもショットをしないときはヴァイオリションであり、相手チームにスロー・インのボールが与えられる。

—第37条 ショットされたボールが空中にある間に30秒の合図が鳴ったとき—

- (3) ボールがリングに触れなかったときは、30秒のヴァイオリションとなる。

30秒のヴァイオリションを宣したときは、ボールがあったところにもっとも近いアウトで、相手チームのスロー・インとする。

第7章 規則違反と罰則

第40条

ファウル、ヴァイオリション、ヘルド・ボールが宣せられたあと、サイド・ラインまたはエンド・ラインのアウトからスロー・インするプレイヤーは、審判に指示されたところからスロー・インする。

審判はスロー・インするプレイヤーにボールを直接手渡すか、スロー・インするプレイヤーが審判に指示された位置にいる場合は、トスまたはバウンス・パスで投げ与えてもよい。

- (1) スロー・インするプレイヤーは、アウトでボールを与えられてから5秒以内にコート内にボールを投げなければならない。
- (2) スロー・インするときに境界線を踏んでもよいが、コート内に触れてはならない。
- (3) コート内のプレイヤーは、ボールがコート内に投げ入れられるまでは、境界線の上方またはそれをこえてからだのどの部分も出してはならない。
- (4) スロー・インのボールを手放す前に、審判に指示されたところからライン沿いに1mを超えて移動すること。一度移動してから逆の方向に移動し直しても差し支えない。ただし、ライン沿いに移動する幅が1mを超えた場合は、ヴァイオリションとなる。

これらの規定が守られなかったときには相手チームにスロー・インのボールが与えられる。しかし、審判は注意を与えてスロー・インのやり直しをさせることもできる。

相手チームの得点のあとエンド・ラインのアウトから行われるスロー・インのときは、原則として審判はボールを扱わない。スロー・インするプレイヤーは、エンド・ラインのアウトのどこからスロー・インしてもよい。

ミニバスケットボール競技規則（30秒ルール）改正対比

平成 26 年 4 月 1 日

現 行 条 文	改 正 条 文
<p>第3章 審判とテーブル・オフィシャルズ</p> <p>第12条 30秒オペレーター 30秒オペレーターは30秒ルール〔第37条〕用の装置またはストップ・ウォッチを使って秒数をはかり、ボールを保持しているチームが30秒以内にシヨットをしなければ合図をする。 30秒はどちらかのチームがコート内でボールを保持〔第26条〕したときからはかり始める。</p> <p>30秒は次の時に終わる。 (1) ボールがシューターの手から離れ、バスケットに入るかリングに触れたとき (2) 相手チームがボールを保持したとき (3) ファウル、ヴァイオレイション、ヘルド・ボールが宣せられたとき (4) そのほか審判がゲームの中断を命じたとき</p> <p>黄色と赤色の小旗を使って30秒の経過を表示するときは、15秒から24秒までは黄色、25秒から30秒までは赤色で表示する。</p>	<p>第3章 審判とテーブル・オフィシャルズ</p> <p>第12条 30秒オペレーター 30秒オペレーターは30秒ルール〔第37条〕用の装置またはストップ・ウォッチを使って秒数をはかり、ボールを保持しているチームが30秒以内にシヨットをしなければ合図をする。 30秒はどちらかのチームがコート内でボールを保持〔第26条〕したときからはかり始める。</p> <p>30秒は次の時に終わる（30秒をリセットする） (1) ボールがシューターの手から離れ、バスケットに入るかリングに触れたとき（シヨットされたボールがリングに触れたとき） (2) 相手チームがボールを保持したとき (3) ボールを保持しているチームの相手チームのファウルやヴァイオレイション（アウト・オブ・バウンズを除く）があつたとき (4) ボールを保持しているチームの相手チームに原因のある理由でゲームが止まつたとき (5) 審判がどちらのチームにも関係のない理由でゲームを止めたとき</p> <p>30秒が継続されるとき（30秒をリセットしない） 次のことが起こつた結果、それまでボールを保持していたチームに引き続きスロー・インのボールが与えられるときは、30秒を止めるがリセットしない (1) ボールがアウト・オブ・バウンズとなつたとき (2) ボールを保持しているチームのプレイヤーの負傷などで審判がゲームを止めたとき (3) ジャンプ・ボール・シチュエーションになつたとき (4) ダブルファウルが宣せられたとき</p> <p>黄色と赤色の小旗を使って30秒の経過を表示するときは、15秒から24秒までは黄色、25秒から30秒までは赤色で表示する。</p>

第6章 プレイの規定

第37条 30秒ルール

コート内でボールを保持したチームは、30秒以内にシヨットをしなければならぬ。

30秒たってもシヨットをしないときはヴァイオレイションであり、相手チームにスロー・インのボールが与えられる。

もし、30秒たたないうちにボールがアウトになり、再びそのチームにアウトでボールが与えられるときは、あらたに30秒をかぞえる。

注解

第37条 シヨットされたボールが空中にある間に30秒の合図が鳴ったとき

(1) ボールがバスケットに入ったときは、得点が認められる。

(2) ボールがリングに触れたときは、ボールがバスケットに入らなくともゲームはそのまま続けられる。

(3) ボールがリングに触れなかったときは、30秒のヴァイオレイションとなる。30秒のヴァイオレイションを宣したときは、シューターの位置からもっとも近いアウトで、相手チームのスロー・インとする。

ただし、ボールがリングに触れなくとも、リングに触れなかったそのボールを相手チームのプレイヤーが明らかに直接保持することができたと審判が判断した場合は、ヴァイオレイションを宣さずにゲームをそのまま続けてもよい。

ゴール・テンディングおよびインターフェアの規定は、30秒の合図が鳴ったあとでもすべて適用される。

第7章 規則違反と罰則

第40条 スロー・インの方法

ファウル、ヴァイオレイション、ヘルド・ボールが宣せられたあと、サイド・ラインまたはエンド・ラインのアウトからスロー・インするプレイヤーは、審判に指示されたところからスロー・インする。

第6章 プレイの規定

第37条 30秒ルール

コート内でボールを保持したチームは、30秒以内にシヨットをしなければならぬ。

30秒たってもシヨットをしないときはヴァイオレイションであり、相手チームにスロー・インのボールが与えられる。

注解

第37条 シヨットされたボールが空中にある間に30秒の合図が鳴ったとき

(1) ボールがバスケットに入ったときは、得点が認められる。

(2) ボールがリングに触れたときは、ボールがバスケットに入らなくともゲームはそのまま続けられる。

(3) ボールがリングに触れなかったときは、30秒のヴァイオレイションとなる。30秒のヴァイオレイションを宣したときは、シューターの位置からもっとも近いアウトで、相手チームのスロー・インとする。

ただし、ボールがリングに触れなくとも、リングに触れなかったそのボールを相手チームのプレイヤーが明らかに直接保持することができたと審判が判断した場合は、ヴァイオレイションを宣さずにゲームをそのまま続けてもよい。

ゴール・テンディングおよびインターフェアの規定は、30秒の合図が鳴ったあとでもすべて適用される。

第7章 規則違反と罰則

第40条 スロー・インの位置と方法

ファウル、ヴァイオレイション、ヘルド・ボールが宣せられたあと、サイド・ラインまたはエンド・ラインのアウトからスロー・インするプレイヤーは、審判に指示されたところからスロー・インする。

現 行 条 文

- (1) スロー・インするプレイヤーは、アウトでボールを与えられてから5秒以内にコート内のプレイヤーに向かってボールを投げなければならぬ。
- (2) スロー・インするときに境界線を踏んでもよいが、コート内に触れてはならない。
- (3) コート内のプレイヤーは、ボールがコート内に投げ入れられるまでは、境界線の上またはそれをこえてからだのどの部分も出してはならない。
- これらの規定が守られなかったときには相手チームにスロー・インのボールを与えられる。
- しかし、審判は注意を与えてスロー・インのやり直しをさせることもできる。
- ファウル、ジャンプ・ボールが宣せられたあとスロー・インとフロン・コートのアウトからスロー・インが行われるときは、審判はスロー・インするプレイヤーにボールを手渡すかトスまたはバウンス・パスで与えるかする。
- 相手チームの得点のあとエンド・ラインのアウトから行われるスロー・インのときは、原則として審判はボールを扱わない。スロー・インするプレイヤーは、エンド・ラインのアウトのどこからスロー・インしてもよい。

改 正 条 文

審判はスロー・インするプレイヤーにボールを直接手渡すか、スロー・インするプレイヤーが審判に指示された位置にいる場合は、トスまたはバウンス・パスで投げ与えてもよい。

- (1) スロー・インするプレイヤーは、アウトでボールを与えられてから5秒以内にコート内にボールを投げなければならぬ。
- (2) スロー・インするときに境界線を踏んでもよいが、コート内に触れてはならない。
- (3) コート内のプレイヤーは、ボールがコート内に投げ入れられるまでは、境界線の上またはそれをこえてからだのどの部分も出してはならない。
- (4) スロー・インのボールを手放す前に、審判に指示されたところからライン沿いに1mを超えて移動すること。一度移動してから逆の方向に移動し直しても差し支えない。ただし、ライン沿いに移動する幅が1mを超えた場合は、ヴァイオリシヨンとなる。
- これらの規定が守られなかったときには相手チームにスロー・インのボールを与えられる。
- しかし、審判は注意を与えてスロー・インのやり直しをさせることもできる。
- 相手チームの得点のあとエンド・ラインのアウトから行われるスロー・インのときは、原則として審判はボールを扱わない。スロー・インするプレイヤーは、エンド・ラインのアウトのどこからスロー・インしてもよい。